



平成 28 年 7 月 1 日

各 位

会 社 名 J Xホールディングス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 内田 幸雄  
コード番号 5 0 2 0 東証・名証第 1 部  
問合せ先 財務 I R部 I Rグループマネージャー  
日暮 達也  
(電話番号 03-6257-7075)

## インドネシア タンゲーLNG 拡張プロジェクトの最終投資決定

当社子会社の JX 石油開発株式会社（社長：三宅 俊作）は、このたび、タンゲーLNG 事業に携わる他社とともに、オペレーターである BP 社と推進するインドネシア西パプア州のタンゲーLNG 拡張プロジェクト（以下、「本プロジェクト」）に対する最終投資決定を行いましたので、お知らせいたします。

本プロジェクトは、現在年間 760 万トンを生産している液化設備二系列に、年間 380 万トンの生産能力を有する第三液化系列を増設するもので、2020 年中の生産開始を目指します。液化設備に加え、2つの海上プラットフォーム、LNG 運搬船用の棧橋の新設及び合計 13 坑の生産井の掘削等を予定しております。

本プロジェクトにて産出される LNG は、その生産能力の 75%相当分がインドネシア国営電力会社である PT. PLN 社に供給され、今後も増加が予想されるインドネシア国のエネルギー需要を支えることとなります。また、生産能力の 25%相当分は関西電力株式会社へ供給し、日本へのエネルギーの安定供給にも貢献して参ります。

本プロジェクトは、2012 年にインドネシア政府により開発計画が承認され、2014 年に環境影響評価の承認を取得しました。今後、主要施設に関するエンジニアリング、資機材調達および建設契約（EPC 契約）について、本年第 3 四半期にエンジニアリング会社と締結し、着工する予定となっております。

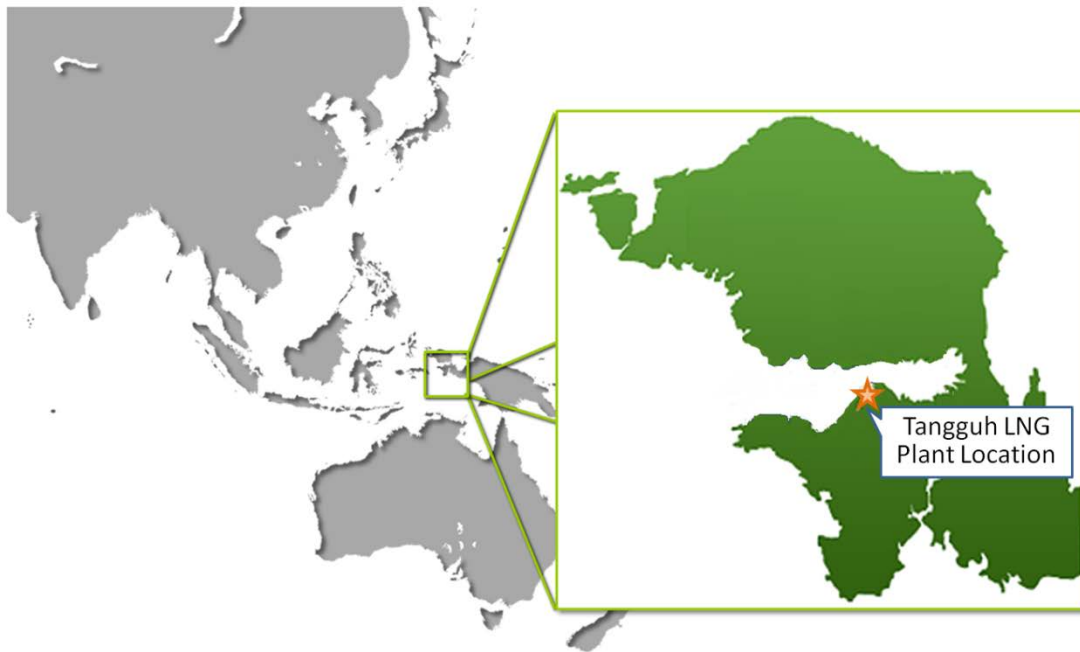
タンゲー事業に携わる企業連合は、タンゲーLNG プロジェクトの供給力の強化を進めることで、今後も日本にとってのエネルギー調達先の多様化と競争力のあるエネルギー資源の確保に貢献して参ります。

なお、本件による平成 29 年 3 月期連結業績への影響は軽微です。

## 参考情報:

タングーLNG 基地はインドネシア 西パプア州にあるビントゥニ湾に所在し、BP 社をオペレーターとするパートナーシップが、SKK Migas（インドネシア石油ガス上流事業監督執行機関）との契約に基づきその操業を請け負っています。プロジェクトの権益構成は、BP 社 37.16%、MI Berau 16.3%（三菱商事株式会社、国際石油開発帝石株式会社）、中国海洋石油総公司（CNOOC）13.9%、日石ベラウ石油開発 12.23%（JX 石油開発株式会社、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構）、ケージーベラウ石油開発 8.56%（独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構、三井物産株式会社、JX 石油開発株式会社、三菱商事株式会社、国際石油開発帝石株式会社）、エルエヌジージャパン株式会社 7.35%（住友商事株式会社と双日株式会社の折半出資会社）、タリスマンウィリアガール社 3.06%、ケージーウィリアガール石油開発 1.44%（独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構、三井物産株式会社）となっております。

## <案件地図>



## <液化プラント既存 2 系列と LNG タンク、棧橋等>

